

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	多摩区第1グループ(枳形・長尾)	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	1 枳形こども文化センター	H27	H28		H27	H28
	①年間延べ利用者数	24,629人	27,362人	②年間延べ利用団体数	336団体	334団体
	2 東生田小学校わくわくプラザ					
	①登録者数	270人	295人	②年間延べ利用者数	15,552人	16,504人
	1 長尾こども文化センター					
	①年間延べ利用者数	26,915人	28,855人	②年間延べ利用団体数	417団体	397団体
	2 稲田小学校わくわくプラザ					
	①登録者数	346人	367人	②年間延べ利用者数	22,928人	23,844人
	3 長尾小学校わくわくプラザ					
	①登録者数	108人	119人	②年間延べ利用者数	5,713人	6,738人
収支実績	単位:円					
	1 収入					
	指定管理料	91,967,719				
	2 支出					
	人件費	72,798,035				
管理費	5,608,748					
事務経費	4,794,498					
その他経費	5,492,695					
合計	88,693,976					
3 差引	3,273,743					
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全な育成が図られているか。			
	(評価の理由) ・仕様書・事業計画書に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・特に、両こども文化センター・わくわくプラザともに、中高生生のボランティアや職業体験の受け入れを積極的に行っており、これらボランティア等がきっかけとなって、以後、こども文化センターを利用するようになるなど、中高生の利用増につながっている。 ・枳形こども文化センターにおいては、生田中学校の職業体験をきっかけに、中学生が定期的に他のボランティア(「おばけやしき」の実行委員会等)に参加するようになったほか、新たに、小学生の頃から枳形こども文化センターを利用している生田高校生が、自主企画「高校生交流会」を実施したこと、テスト期間中等に、勉強したり寛いだりできる専用室「枳形ほっとステーション」を開設したこと等により、高校生の利用は前年度の3倍以上に増えた。 ・長尾こども文化センターにおいては、学習室や図書室を中高生が使いやすいように環境整備し、中学生の利用が前年度の2倍に増えた。 ・こうした取組により、両こども文化センターの年間利用者数も増加しており、前年度から約4,600人増加した。				

サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
	保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズについては、事業実施後のアンケートや館内設置の意見箱、運営協議会や子ども運営会議、保護者懇談会等を通じて適宜把握しており、枳形こども文化センターでは、「おばけやしき」実施の際、実行委員会を立ち上げ、中学生を中心に子どもたちの意見を取り入れた活動を実施したり、長尾こども文化センターでは、月1回の子ども運営会議での意見を活かすなど、可能なものから順次対応している。 学校及び行政機関との連携については、両こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、玉川大教育学部で保育士を目指す学生の保育実習を受け入れたり、宿河原小や東生田小、稲田中の職業体験を受け入れたり、また、わくわくプラザにおいて学校と定期的に情報交換会を設け、情報共有を図る等の連携が図られている。 施設・事業の広報については、両こども文化センターともに、中高生向けのたよりを季刊で発行し、枳形こども文化センターにおいては、枳形中・生田中の全校生徒に配布するなど、対象年齢を捉えた積極的な広報を行っている。 					
組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置ができています。 研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。特に、多摩第1Gで初めて実施する防災宿泊体験に向け、「野外活動研修」を実施したり、中高生の利用が多いことから、枳形こども文化センターでは「地域の中学生の特性研修」を行う等、更なる研鑽を行っていた。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4
災害発生時に備えた対応が図られているか。					
災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を定期的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 利用者の安全確保については、グループ全職員に普通救命講習の受講を義務付け、有事に備えるとともに、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行っている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。地域の防災意識が高く、両こども文化センターにおいて、今年度新たに、運営協議会の共催の元、炊き出し・宿泊体験を実施するなど、地域とともに子どもの安全・安心を見守る活動を行っている。 					

収 支 計 画 ・ 実 績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している。各種イベントを実施する際には、子ども運営会議の委員が自ら企画・運営できるようなサポート体制を取っており、こども文化センターの目的である、青少年の健全育成・社会参加に大きく貢献していると言える。

また、中学生・高校生のボランティアや職業体験の受入等、近年、喫緊の課題となっている中高生の居場所づくりに積極的に取り組んでいること、両こども文化センターともに、老人いこいの家との合築施設であること等から、地域ボランティアを活用した多世代交流事業を実施していること等、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所の一つとしての役割を十分担っていると言える。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、職員と子どもが顔の見える関係を築き、中高生を含めた様々な年代の子どもたちにとって、居心地のよい場となるよう努めてもらいたい。